

市民の切実な声届かず 少人数学級の実現願う請願を不採択

「定員以上でも受け入れる」 指定避難所への避難

台風10号による災害では、長崎県などで避難所が満員になり、避難所には入れないという例が出ました。

今議会の一般質問では、このことに関して、上越市の避難所の設置についての質問がありました。

市によると、「市は、総人口の14%、27,000人を受け入れられるだけの避難所を準備している。また、避難所の基準は、国は1人当たり4㎡としているが、当市では7㎡としているので、仮に国の基準に合わせると、22～23%、44,000人を受け入れられる。さらに、万が一その想定以上の避難者が出るような場合でも、各施設では他の部屋を開放するなどして、すべての避難者を受け入れる方針である」とのことです。

ただ、全世帯に避難を呼びかける「避難指示」を出す場合があることを前提にしながら、避難者の想定が14%であることは疑問です。



日本共産党上越市議員団ニュース

No.675 2020年9月27日

連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
絡 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
先 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))



意見陳述を行う渡辺さん

9日には、「新日本婦人の会」上越支部長の渡辺寿子さんが、文教経済委員会で意見陳述を行いました。渡辺さんは、「何校かの学校を訪問して、先生方からは、4月の分散登校で20人以下のクラスになったとき、子どもたちの間隔も確保できて、子どもたちどこでも

女性団体が意見陳述

今議会には、市内の女性団体から、「新型コロナウイルス感染症は、その後も急激に拡大しているもとで、学校では万全の感染症対策が求められていることから、児童・生徒間の十分な距離を保ち、教育活動を継続し、子どもたちの学びを保障するために、20人程度の少人数学級を実施することと、それを可能とするために小中高の教員の抜本的な増員をはかること」を求める国への意見書を採択する請願が出されました。

少人数学級は、感染防止という意味だけでなく、一人ひとりに教師の目が行き届き、どの子も生き生きと学べる環境を保障する意味でも重要で、すでに先進国では常識になっています。

まづいていのかよく見え、一人ひとりに声をかけて目を配ることができたと感じたそうです。また、子どもたちや保護者も、先生がより丁寧に勉強を見てくれたと喜んでいきます。コロナ禍で公共施設では定員を減らしています。学校でも同じです。子どもたちの安全と安心に責任を持てるように、ぜひ少人数学級を願う意見書を採択してください」と、切々と訴えました。

賛成なく不採択に

この請願は、多くの子どもたち、保護者、教員の願いの実現をめざして、国に対して「少人数学級の実現を求める」という意見を市議会から出してほしいというものです。

ところが、意見陳述の後の請願審査では、委員から次々に反対意見が出て、結局賛成する委員はおらず、不採択となりました。(日本共産党の上野公悦議員は、同委員会の委員長であるため、採択には加わりません)

反対の理由は

出された反対意見は、つぎのようなものでした。

- 20人程度の少人数では、コミュニケーションが取りにくい。
- コロナ禍での密を避けることを目的としているが、学校の教室内での感染やクラスターは例がない。関東ではともかく、それ以外では感染爆発は起きてい

ない。だから必要ない。

- 学校は夏休みの減少などで疲弊している。それに加えて少人数学級などをやったらもっとたいへんになる。
- 少人数が良いわけではない。集団の中での人間関係を作るのは20人が良いかは考える必要がある。
- 20人となると、学校の設置基準にも関わることになる。また、幼稚園や保育園にも関係する。だから賛成できない。

○ 少人数学級にすると、教員を増やすことが必要だが、教員を急に増やすと教員の質の確保ができるのか疑問だ。学びの保障ができかねる。

いずれも、学校現場の実態や、教員・保護者・子どもたちの思いとはかけ離れ、請願の趣旨を十分に汲みつくしていない意見であると言わざるをえません。

28日に本会議で採決

この請願は、28日の本会議で採

決が行われます。この本会議での採決では、各議員とも請願の趣旨を再確認して、賛成してくれることを願ってやみません。

上越保健所管内感染症患者発生状況

(9月19日現在)

PCR検査実施件数 1,424件
感染症患者数 14人(上越市内13人)
陽性率 0.98%